

# 《セミラーミデ》パリ版フィナーレのレチタティーヴォ

現存する唯一の楽譜素材とその複製

水谷 彰良

初出は『ロッシーニアーナ』（日本ロッシーニ協会紀要）第33号（2012年12月発行）pp.100-105の拙稿。楽譜をスキャンし直し、HPに掲載します。（2013年3月/2014年12月誤植訂正）

## 《セミラーミデ》のパリ改作版について

《セミラーミデ》（1823年2月3日ヴェネツィアのフェニーチェ劇場初演）は、ロッシーニ最後のオペラ・セーリア。その台本作家ガエターノ・ロッシ（Gaetano Rossi, 1774-1855）は《タンクレーディ》（1813年）の台本も手掛け、《セミラーミデ》も《タンクレーディ》と同様、原作をヴォルテールの劇に求めている。

ロッシーニは初演シーズン中に幾つかの楽曲を削除し、その後ロンドン滞在時の上演でも楽曲とレチタティーヴォの一部をカットしたことが印刷台本により確かめられる。だが、劇的な見地での改変はパリに活動の場を移した後、1825年12月8日のイタリア劇場（サル・ファヴァール）でのフランス初演のためになされたことが全集版序文で明らかにされている。この上演用にロッシーニは第1幕イドレーノのアリア（N.4）とその前後のレチタティーヴォ、小二重唱の後のレチタティーヴォを削除しているが、より重要なのは第2幕フィナーレでセミラーミデが討たれた後のレチタティーヴォの追加と末尾の合唱の変更である。これはセミラーミデに末期の言葉を語らせ、その余韻をもって合唱が恐怖を歌うもので、劇的にはより整合性が認められるが、主演したフォドル夫人（Joséphine Fodor, 1789-1870）の体調不良もあって成功せず、その後このヴァージョンが流布した形跡もない<sup>1</sup>。

周知のように《タンクレーディ》は原作の悲劇的結末をしりぞけてハッピーエンドとしたが、ロッシーニはフェッラーラでの再演に際して原作どおりの悲劇的結末とする改作を行った。その初演は観客に受け入れられず、お蔵入りとなってしまったが、現在は劇的な見地からフェッラーラ改作版が高い評価を得ている。これに対し、《セミラーミデ》の初演版は悲劇の体裁をとり、母を殺したと知って絶望したアルサーチェが自殺しようとする。それゆえ悲劇的結末には違いないが、自刃を止められ気を失ったアルサーチェを王座に求める幕切れの合唱は唐突で、悲劇的結末の効果を弱めている。1825年のパリ改作は、まさしくその点を改めることを主眼にレチタティーヴォが追加され、最後の合唱のテキストもアルサーチェを王に招く内容からおぞましい出来事に恐怖するコロスの合唱に差し替えられた。それゆえパリ版の第2幕フィナーレの楽譜素材が現存していれば、初演版よりも優れたヴァージョンとして現在の上演や演奏に使われるはずである。しかし、後述するようにこのパリ改作版は新たなレチタティーヴォの印刷楽譜（パシーニ版ピアノ伴奏譜、パリ、1826年）を除いて楽譜素材が未発見（おそらく消失）で、合唱については印刷台本のテキストが唯一の資料であることから、復活上演や再演奏の道が閉ざされている<sup>2</sup>。

パリ改作版の印刷台本は1825年と1826年の2種が存在するが、台本部分はまったく同じである。その1825年版とヴェネツィア初演版のテキスト異同は全集版《セミラーミデ》校註書の補遺4（pp.227-232. [Appendice IV]）で明らかにされ、唯一の楽譜素材であるレチタティーヴォの楽譜も全集版第3巻の補遺4に掲載されている（pp.1466-1467. N.13 Finale Secondo [Nuovo Recitativo]）。それ

<sup>1</sup> 最初のシーズン中の楽曲カットからパリ初演での変更に至る詳細は全集版《セミラーミデ》序文の該当箇所とN.13a、パリ改作版の現存素材については同校註書Appendice IVを参照されたい。

<sup>2</sup> 最後の合唱の詩節に該当するロッシーニ旧作の合唱曲は存在せず、このテキストに新たに作曲したものと思われるが、楽譜素材が現存しないため復活演奏は不可能となっている。

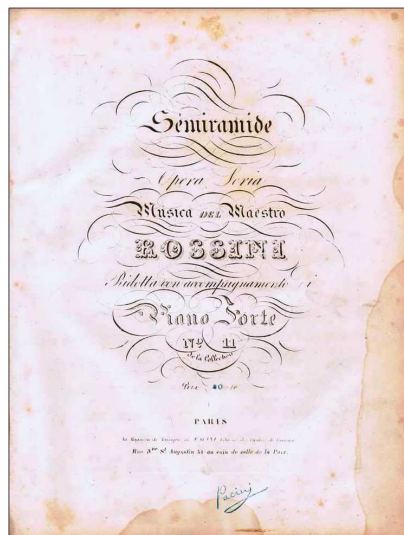
ゆえ誰もがパリ改作版の概要を知りうるわけであるが、筆者がやや不満に思うのは、補遺4の楽譜掲載が新たなレチタティーヴォ部分(324a~358a小節)に限定され、それに先立つ部分を省略した点である。全集版の編集方針では正しい措置としても、原典となる印刷楽譜のレチタティーヴォは「最終場(Scena ultima)」として独立したプレートに全50小節あるのに、全集版はその後半25小節のみを掲載しているのだ。これではレチタティーヴォのすべてをピアノ伴奏で演奏することができない。本稿で原典のすべてを複製するのも、パリ改作版最終レチタティーヴォの形態と内容をより正確に理解してほしい、と考えてのことである。次に原典となる印刷楽譜の概要を示し、歌詞対訳を挟んで楽譜を複製しておきたい。

### 新たなレチタティーヴォの唯一の楽譜素材(パシーニ版の第2版、1826年)

パリ改作版における追加レチタティーヴォの唯一の楽譜素材であるパシーニ版全曲ピアノ伴奏譜(riduzione Pacini)は、同社の初版ではなく、第2版にのみ掲載されている。パシーニ版の初版(全集版の略号はrP I)はロッシーニの許可を得てヴィーンのアルタリア社が1823年に出版した《セミラーミデ》初版楽譜(Artaria e Comp., Wien, 1823.)に基づいて作られ、レチタティーヴォの大半を掲載しない全285頁であるのに対し、第2版(全集版の略号はrP II)はレチタティーヴォを追加して楽譜部分が約50頁増えている。この第2版は1825年12月のパリ初演から半年以内、おそらく1826年前半の出版と推測されている。<sup>3</sup>

ロッシーニ財団は第2版を3冊所蔵しており、その比較からパシーニ社が1頁分のレチタティーヴォを欠く全324頁の楽譜を最初に作成、その後すぐにこれを追加した全325頁のエディションを出版したとする。問題の最終場は319-321頁の全3頁(プレート番号は最後の合唱と同じ1190)で、オローエの「ニーニア、討つのです(Ninia, ferisci)」で始まり、最初の25小節は基本的にオリジナルどおりで全集版第2幕フィナーレの299~323小節に該当する。続くパシーニ版の25小節は完全に新しい部分(324a~358a小節)で、テキストは倒れているセミラーミデを目にしたアルサーチェの「母だ、ああ、なんてこと!…(La madre, oh ciel!...)」に始まり、セミラーミデの末期の言葉「私は死にます…さようなら!(Io moro...Addio!)」で終わる。そして終止の和音なしに次頁の合唱に移行するが、その合唱は調性・歌詞共に初演版と同じである。なお、パリ版の印刷台本にはセミラーミデの「Addio!」に続いてアルサーチェの台詞と書き、オローエの書きと台詞があるが、パシーニ版にその部分の歌詞と音楽が無いことから作曲されなかったものと思われる。

次にこの最終場の歌詞を印刷台本の書きや異同を含めて訳詞と共に掲げ、続いて楽譜の複製を掲載する。



パシーニ版第2版のタイトル頁  
(筆者所蔵)

<sup>3</sup> 以下パシーニ版に関する記述は全集版の校註書 pp.47-49.に基づくが、筆者は初版と第2版の双方を所蔵しており、それぞれの現物を参照して執筆した。

**Oroe** オローエ

Ninia, ferisce! ニーニア、討つのです!

**Assur** アッスール

Ninia!... ニーニア! ...

**Arsace** アルサーチェ

Assur!... アッスール! ...

**Semiramide** セミラーミデ

Il figlio!... 息子だわ! ...

**Assur** アッスール

Arsace! ov'è?... アルサーチェ! どこだ...

**Arsace** アルサーチェ

Pera! 死ね! (註:パシーニ版は pena! 罰だ!)

**Semiramide** セミラーミデ

Si salvi! 助かったわ!

**Arsace** アルサーチェ

Padre mio, ecco la tua vendetta. わが父上、あなたの敵討ちです。

Iniquo...mori! 邪悪な者め...死ね!

**Semiramide** セミラーミデ

Oh Dio!... ああ、神様! ...

**Oroe** オローエ

Magi... Guardie, 祭司たち、衛兵たちよ、

——以下、新レチタティーヴォ(324a~358a)

**Arsace** アルサーチェ

(vedendo Semiramide) (セミラーミデを見ながら)

La madre, oh ciel!... 母だ、ああ、なんてこと! ...

oh fera vista!..oh colpa! ああ、なんと残酷な光景! ...間違いだ!

io le trafissi il seno... ぼくはあなたの胸を刺してしまった...

La vita io tolgo a chi mi diè la vita! ぼくを産んだ人の命をぼくが奪った!

**Semiramide** セミラーミデ

T'appressa, amato figlio... 愛する息子よ、そばに来ておくれ...

a chiuder vieni il moribondo ciglio... 臨終の眼を閉じにお出で...

**Arsace** アルサーチェ

(Arsace s'inginocchia) (アルサーチェ跪く)

Oh tremendo destin! ああ、恐ろしい運命だ!

Morir mi sento...Barbari Dei, ぼくは死にそうだ...残忍な神々よ、

voi m'ingannaste! ぼくを欺いたな!

**Semiramide** セミラーミデ

Ah! Taci!...innocente tu sei... ああ! 黙りなさい! ...あなたは無実よ...

La rea son io...Obblia l'orrenda colpa... 罪人は私...恐ろしい罪は忘れてね...

Azema! Ninia...la mano...a me porgete, アゼーマ! ニーニア...手を...貸しておくれ、

stretti da dolce Imen lieti vivete... 甘美な結婚でしっかりと結ばれ、幸せに生きてね...

Ohimè! Dagli occhi miei fugge la luce... ああ! 私の眼から光が消えていく...

Ninia...ah! Dove sei... ニーニア...ああ! おまえはどこにいるの...

Diletto figlio mio...stringimi al seno. 愛しいわが子...抱き締めておくれ。

Io moro...Addio! (more) 私は死にます...さようなら! (死ぬ)

新たなレチタティーヴォのテキスト対訳(水谷彰良・訳)

註: パシーニ版 319-321 頁(冒頭に最終場 Scena ultima とある)に該当。印刷台本のト書きは新たなレチタティーヴォのみ追加し、大文字・小文字は全集版に即して補正した。

SCENA ULTIMA. 519

Orce. *Assur.* *Arsace.*  
Ninia fe-risci... Ninia! As-sur!..

Piano.

*Semiramide.* *Assur.* *Vivace.* *Arsace.* *Semira.*  
il figliol.. Arsace ov'è? pe-na si salvi

*Arsace.*  
pa-dre mio... ecco la tua vendet-fa i-ni-quo

*Semira:*  
mo - - ri oh Di - - o

*Orec.*

ma - - ei guar - die

*Arsace.*

la madre! oh Ciel! oh fero vista oh

*Tremolo.*

*Semiramide*

colpa io le trafissi il seno la vita io tolgo a chi mi die la vita! l'ap

*Audante.*

*Arsace.*

-pressa amato figlio a chiuder vien il moribondo ciglio oh! tremendo des

524

*Semir.*

-fin morir mi sento barbari Dei voi m'ingan-naste! ah! taci innocente tu

sei la rea son io obbli-a l'orrenda colpa A-

-zema Ninia... la mano.. a me porgete strettidadolce imen lieti vi

-vete ohimè dagli occhi miei fugge la luce Ninia ah! dove

*Tremolo.*

sei? diletto figlio mio stringimi al seno io manco io moro addi- o!

4190

[Collezione privata di Akira Mizutani – Tokyo]